

E-COmmunication partner
人と地球にいいコミュニケーションパートナー

Environmental Report



環境報告書 2010

基本理念 3K

環境の



私たちの活動指針は、環境です。
迷ったときは環境を最優先に
物事を運びます。

感動の



私たちが行動を起す源は、
感動です。感動がないと、
人は動きません。

改革の



私たちが考えているのは、
常に改革です。
改革なくして
発展はありません。

この気持ちをスタッフ全員が心に刻み、
積極的に挑戦していくグループであり続けます。

【報告対象期間】 2009年度(2009年5月1日~2010年4月30日まで)
※関連する報告で一部この期間が前後している場合もあります。

【報告対象組織】 キンカングループ全社(4社)

【発行日】 2010年10月

ごあいさつ

まずはじめに、本年度で2回目となる環境報告書が発行できたことを大変嬉しく思い、そしてご協力頂いたステークホルダーの皆さまに感謝申し上げる次第でございます。

昨年は、手探りの中から若手スタッフを中心となり、初めてながらも環境報告書を作成させて頂きました。拙い表現や、精査し切れていない内容などもあったかと思いますが、まずは情報開示し、ステークホルダーの皆さまに当グループの理念や考え、そして現状を知って頂くことを主眼に置き、発行させて頂きました。そして、本年はさらにその方向性を変えることなく、見やすく、皆さまに読んでいただきやすい内容にさせて頂いたつもりでございます。機会があれば、手にとって頂ければと思います。

さて、当グループは廃棄物処理というサービスを通し、地域の皆様への貢献と、持続的な循環型社会の構築を目指し、日々活動を続けております。私たちが社会のインフラとして必要不可欠な存在であり、なおかつ非常に重要な責任を背負っていることをスタッフ全員が自覚出来るよう、努めて参ります。そのためには今後、スタッフ一人ひとりのモラル、スキルをアップしていく教育をさらに強化し、皆さまに安心を提供し、信用・信頼を頂ける企業になるよう、努力する所存でございます。

また、今年の4月に、近畿環境保全株式会社の代表取締役会長であった西村裕司が永眠いたしました。その節にはたくさんの方々からのお心遣いを頂き、誠にありがとうございました。昭和の時代を駆け抜けた先代の努力と、創業50年近く続く歴史を私たちの世代が真摯に受け止め、次世代へこの素晴らしい環境を必ず繋いでいくという覚悟を持って、今後も皆さまとともに歩んでいきたいと考えています。



最後になりますが、この環境報告書の作成に関わってくれたスタッフに対して、忌憚の無いご意見ご質問を頂ければ幸いです。

2010年10月

近畿環境保全株式会社 代表取締役社長
株式会社湖南リサイクルセンター 代表取締役

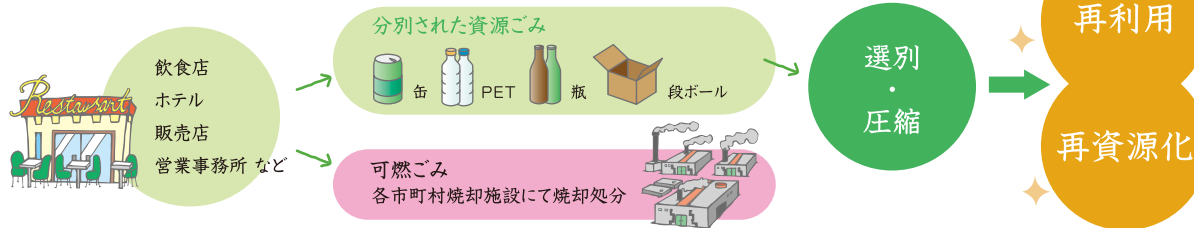
西村 忠浩

【目次】

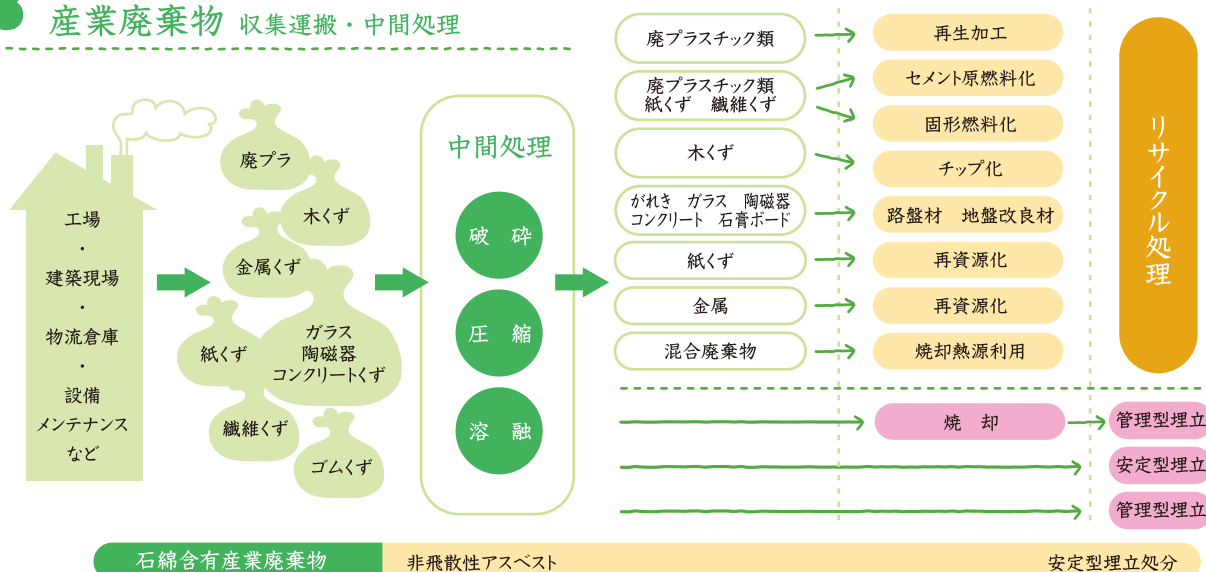
03 事業内容・会社概要	09 環境マネジメント(ISO14001)への取り組み	25 あとがき
04 グループ企業理念	● 目的目標 ● 維持管理目標 ● 安心できるサービスづくり	第三者のご意見
05 施設紹介	● 安全な仕事環境づくり ● 処分地視察	26 アンケート
	15 社会との調和への取り組み	
	● 地域との調和 滋賀県・湖南省との連携／草津市との連携／清掃活動／キンカンセミナー／ 地元サッカーチームの応援／世界との連携	
	● 自然環境との調和 BDFプロジェクト／グループの環境負荷の削減	
	● スタッフ環境活動	

事業内容

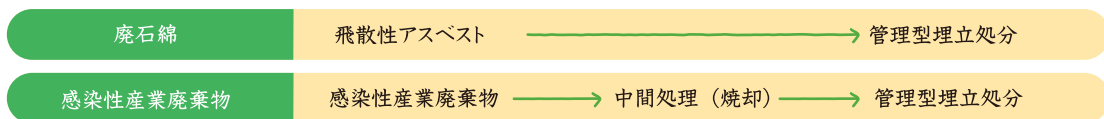
事業系一般廃棄物 収集運搬



産業廃棄物 収集運搬・中間処理



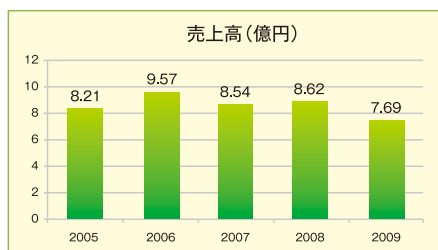
特別管理産業廃棄物 収集運搬



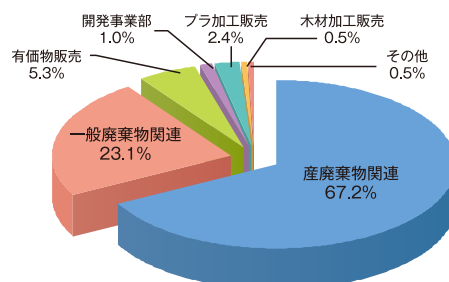
● 会社概要

【社 名】近畿環境保全株式会社
 【本社所在地】〒525-0041 滋賀県草津市青地町196
 【会社設立】昭和50年6月11日
 【資本金】16,000,000円
 【ホームページ】www.kin-kan.co.jp
 【グループ会社概要】
 株式会社湖南リサイクルセンター
 株式会社きふら
 有限会社ラゴ

【事業内容】一般廃棄物収集運搬業／産業廃棄物収集運搬業／産業廃棄物中間処理業／特別管理産業廃棄物収集運搬業／有価物加工販売／建築解体業／リフォーム・外構工事／環境機器販売
 【従業員数】65名



● 近畿環境保全株式会社 売上高



● 事業分野別売上構成

グループ企業理念

当社は、資源リサイクルと廃棄物の収集運搬及び中間処理業を3本柱とし、適正に再資源化、処理を行う上で、循環型社会の構築に努めます。

「人と地球に“いい”コミュニケーションパートナー」

をキャッチフレーズにかけがいのない地球を大切にしたい。

そんな気持ちの実現を目指し、自然との共生を目指します。

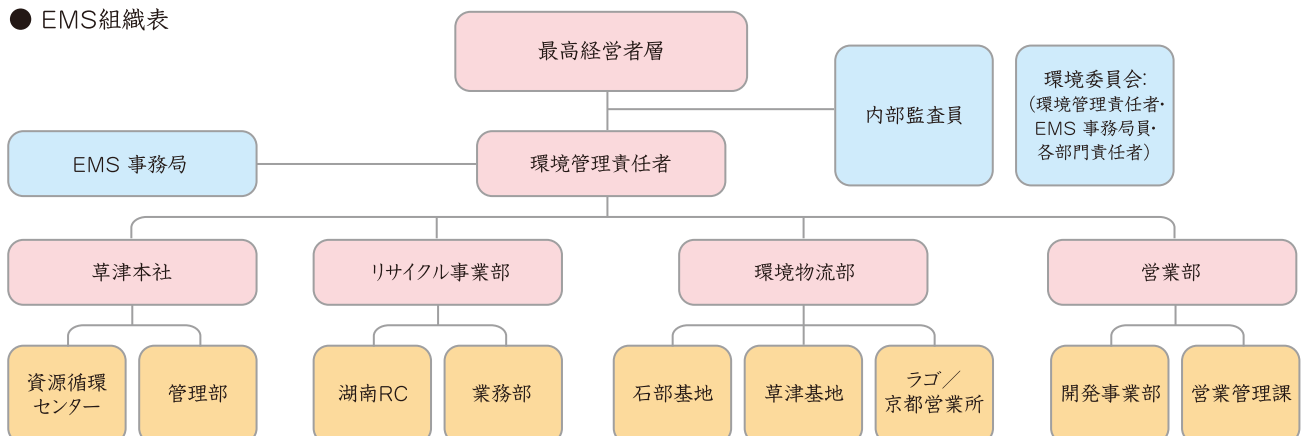


環境活動方針

- 1 廃棄物を資源と認識し、適正に再資源化、再利用、再生利用、処理することに努めます。
 - ① 資源の有効利用と、社内から出る廃棄物の分別及び再資源化に努めます。
 - ② 中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。
 - ③ 地域に根ざした環境事業の推進で、地域社会の貢献に努めます。
- 2 環境関連法規制・条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 3 事業活動から生じる環境負荷を低減するため、具体的環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムを継続的に改善することにより、環境汚染の予防に努め、環境保全活動を推進します。
- 4 全構成員が、環境保全事業に従事する自覚を持ち、常に環境に配慮した行動を心がけるよう周知し、環境に関する教育及び啓蒙を行います。
- 5 本方針を実行し、維持し文書化して、全構成員に周知徹底するとともに、社外にも情報開示します。

2005年9月6日 現在

● EMS組織表



施設紹介

キンカングループのゼロエミッション工場

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社湖南リサイクルセンターでは産業廃棄物処理と再資源化を行っています。

滋賀県下最大級の間処理能力を誇り、お客様のニーズに基づいた処理・リサイクルを行います。



廃プラスチック類のマテリアルリサイクル

有価物のプラスチックを当工場で圧縮し、国内外に売却しています。圧縮されたプラスチックはペレット化され、新しいプラスチック商品に生まれ変わります。

◎ 廃プラスチック類のゼロエミッションリサイクル

セメントリサイクル

マテリアルリサイクルに適さない非塩ビ系の廃プラスチックを圧縮し、トクヤマセメントで原料及び燃料化しています。

100t/日
処理能力

廃プラスチック類(塩ビを除く)

固形燃料(RPF)リサイクル

非塩ビ系の廃プラスチック、紙くず、繊維くずやその混合物は圧縮処理後、RPF 製造工場で固形燃料化され、製紙会社のバイオマスボイラーにて使用されます。

100t/日
処理能力

廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず(塩ビを除く)

サーマルリサイクル

セメントにも、RPFにも適さない廃棄物は、当社にて破碎処理後、発電や廃熱利用を行うサーマルリサイクル施設で利用されます。焼却後の残渣もメタル・スラグとして利用されています。

200t/日
処理能力

廃プラスチック類、金属、木くず、紙くず等混合物廃棄物、複合廃棄物

圧縮処理



プレス梱包された廃棄物

(株)トクヤマにてセメントの原燃料化としてリサイクル

圧縮処理



プレス梱包された廃棄物

製紙会社にてバイオマスボイラーに使用しリサイクル



固形燃料

破碎処理



破碎処理された廃棄物

排熱を発電に利用後、灰をスラグ・メタルとしてリサイクル

ゼロエ
ミッション
達成

株式会社きぶら

株式会社きぶらでは、木材チップの製造を行っています。湖南リサイクルセンターで中間処理された木くずを、木の種類ごとに粉碎し、木材チップとして再生されます。製紙や建材原料、堆肥としてマテリアルリサイクルされたり、バイオマスボイラーの燃料として活用されています。



◎ 木くずを有効にリサイクルします。

製紙原料や
建材原料となる
純木パレット、
梁、柱材など



バイオマスボイラーや
堆肥となる合板、
腐敗パレット、生木、
枝葉、刈草など



1 重機で木くずを投入します。



2 木くずを粉碎してチップを製造します。



5 木材チップ運搬車にて出荷



4 できあがった木材チップ



3 釘などの金属は磁選機により分けられます。



- 製紙原料チップ
- 建材原料



- バイオマスボイラー燃料チップ
- 堆肥



▶ 有価物として売却されます。

資源循環センター

資源循環センター

事業系一般廃棄物の回収拠点として車輛を配備し、主にダンボールや古紙、空き缶、発泡スチロール、ペットボトル等の資源物をリサイクルする処理施設です。可燃ごみの収集車とは別に2tアルミ車にて収集を行い、資源物を巡回回収しています。お客様の持込み搬入に対応しており、有価物として買取しています。



◎ 資源循環センターは資源物に特化したリサイクルセンターです。

回収



缶、瓶、ペットボトル、古紙、ダンボール、ミックスペーパー、
廃植物油、発泡スチロール、ペットボトルキャップ

選別圧縮機



製鋼原料として再生



圧縮処理された空き缶

大型圧縮機



プラスチック原料、製紙原料として再生



圧縮処理されたダンボール・ペットボトル

熔融機



プラスチック原料として再生



熔融処理された発泡スチロール

処理した資源物はすべて有価物として販売しています。



様々な環境活動の紹介



環境マネジメント(ISO 14001)への取り組み 09

目的目標 09

維持管理目標 11

安心できるサービスづくり 13

安全な仕事環境づくり 14

処分地視察 13~14



社会との調和への取り組み 15

地域との調和

滋賀県・湖南市との連携 15

草津市との連携 17

清掃活動 18

キンカンセミナー 19

地元サッカーチームの応援

世界との連携 20

自然環境との調和

BDF プロジェクト 21

グループの環境負荷の削減 22

スタッフ環境活動 23



キンカングループは

社会との調和を目指し

さまざまな環境活動を展開しています。



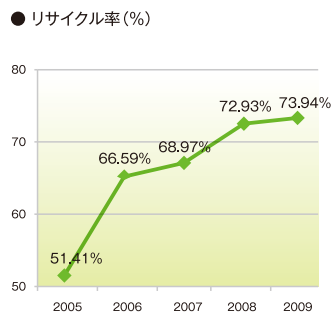
目的目標

① 中間処理後のリサイクル率

74%
リサイクル率
目標達成



2009年度において、湖南リサイクルセンターに搬入された産業廃棄物のリサイクル率は、目標値の65%を超えて約74%に増加しました。より細かな選別により、廃棄物からリサイクル可能なものを回収すること、またお客様に分別回収の提案をすることで、リサイクル率を向上させています。



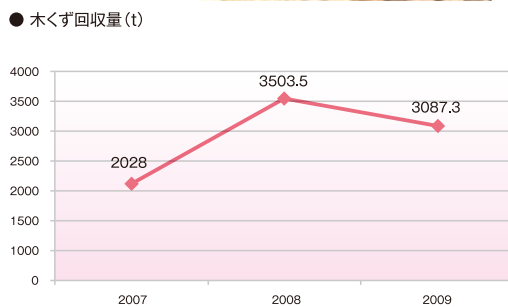
② 木くずの回収量

52%
回収量増加
目標達成

木材チップの排出量は2008年度と比べ、0.1%増加を目標としました。しかし、実際には0.5%減少となり、目標を達成できませんでした。一方で、木くずの回収量は2007年度の2%の目標に対して、50%以上の増加となり、目標達成ができました。



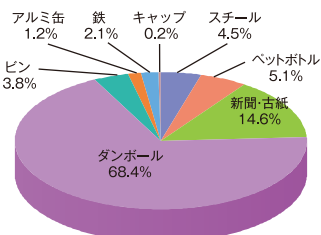
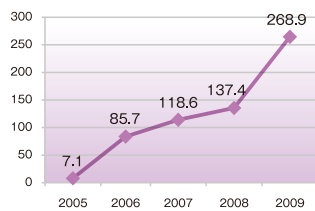
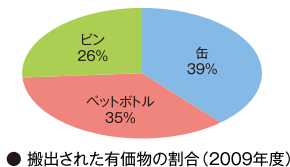
before



③ 資源物の有価搬出量

269t
有価物搬出量
目標達成

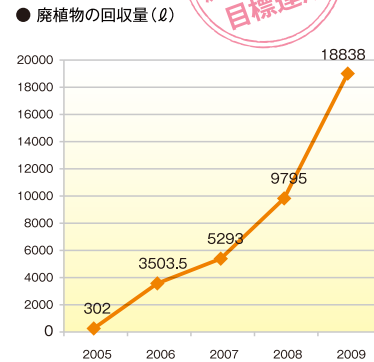
昨年、資源循環センターとして本社工場をリニューアルさせたことにより、資源物の搬出量が倍増いたしました。目標は有価物として販売できる「あき缶・ペットボトル・ビン」の搬出量を2007年度ベースより2%増やすことでしたが、それ以外の故紙や発泡スチロールなどの資源物も同じく増加しました。重量を基準に見れば、もっとも搬入量が多いのはダンボールです。ダンボールは圧縮されたあと、製紙メーカーにてもう一度溶解し、再利用されるので、環境負荷の少ない資源だと言われています。



④ 廃植物油の回収量

18,838ℓ
廃植物油回収
目標達成

近畿環境保全は、廃植物油を定期的かつ効率的に回収するだけでなく、分別された他の少量資源物と同時に回収することにより、運搬にかかるコストを削減しています。また、BDFネットワークとして、おごと温泉組合様やネクスコ西日本様との協力により、回収量のアップ、地域へのBDFプロジェクトの拡大を行っています。2009年度の回収量は前年度と比べ倍増し、2007年度からの2%増加目標をはるかに上回りました。



2005年より当グループでは、ISO14001の環境マネジメントシステムに取り組んでいます。

環境への負担を削減するために、毎年より高い目標を立てて活動をしています。

2009年度にはリサイクル率をさらに高めることや、グリーン購入ネットワークの会員となり、環境配慮商品の購入を増やしていくことなどの目標を立てました。

当社の環境方針を実行するために次の項目を目標にし、環境経営を行っています。



5 低公害車輛の導入

4台
低公害車輛購入
目標達成



2008年度の目標は、当グループの車輛を2010年までに4台のNox・PM対応車に交換することでした。2008年度に3台、2009年度に1台を購入し、目標を達成しました。NOx・PM対応車とは、NOx(窒素酸化物)とPM(粒子状物質)の排出基準を適合している車輛のことです。



6 グリーン購入率

26.3%
グリーン購入率
目標達成

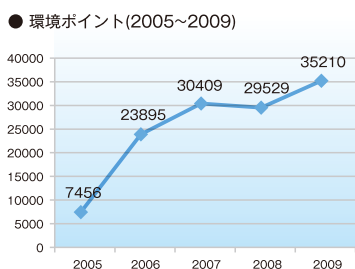
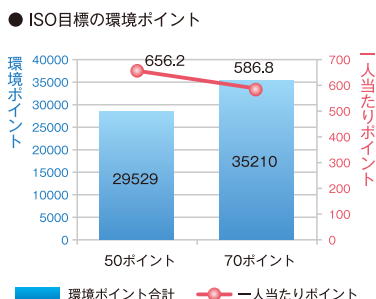


2009年度に当グループは、グリーン購入ネットワーク会員となりました。文具やオフィス用品を購入する際、出来るだけ環境配慮型商品になるよう選択しています。スタート時には購入金額の20%を目標に掲げていましたが、すでに20%を超え、26.3%がグリーン購入に該当しました。

7 環境ポイント運動

70ポイント
環境ポイント
目標達成

スタッフの取り組みとして、毎年継続して資源物回収運動を行っています。最初は社内キャンペーンとしての取り組みでしたが、2年前からはISO14001の中で環境ポイント制度としての目的目標のひとつとなりました。空き缶やペットボトルなどの資源物をスタッフが持ち込むことで、環境ポイントが与えられます。2008年度には一人当たり50ポイントを目指していましたが、2009年度には70ポイントに引き上げ、総数で約35,000ポイントが集まりました。参加するスタッフが増えたので、一人当たりの平均ポイントは減少しましたが、活動がより広がっていることを意味します。



ISO14001の目的目標を、マイナスの環境側面に対しての数値の削減ではなく、自社の活動を主に環境に有益な物と考え、2009年度の目的目標を設定いたしました。廃棄物処理業を営んでいる当社にとって、法遵守と共に「環境に有益」というキーワードは今後とても重要で、大きく事業に関わってきます。そして各種のリサイクル率の向上は、委託されたお客様の産業廃棄物をいかに環境負荷をかけずに処理を行うかを考え、分別作業の徹底や、お客様が分別排出の協力をして下さった結果だと思えます。また、スタッフ全員参加型の環境ポイント制度を思いついたときは、社内で高評価を頂き、嬉しかったことを思い出します。

スタッフ
コメント



環境管理責任者 永戸 浩一

毎日の
積み重ねが
大事!



維持管理目標

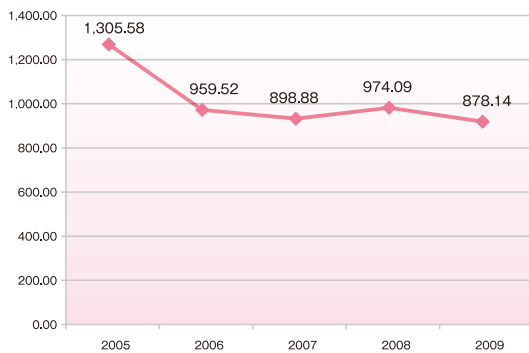
1 CO₂の排出量

当社のCO₂排出量は昨年より約100t減少しました。その一つの要因として、一部の車輛で軽油の代わりにバイオディーゼル燃料を使用していることが挙げられます。今後もバイオディーゼル燃料使用車を増やしたいと思っています。

CO₂
96tも
削減!

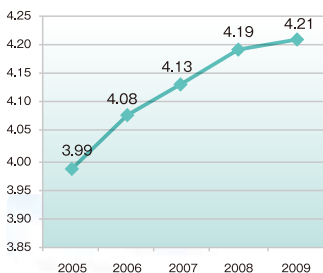


● 当社のCO₂排出量 (t)



3 車両燃費

● 収集運搬車輛の燃費 (km/ℓ)



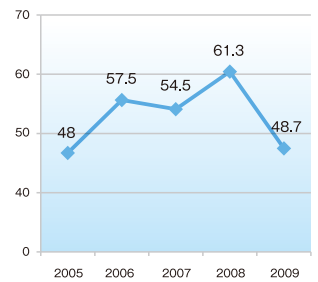
廃棄物の収集運搬では燃料消費により環境への負荷が生じるので、燃費が上がるように務めています。その結果、燃費は年々向上し、2009年度に平均4.21km/ℓとなりました。低公害・低燃費車輛の導入やエコドライブへの心がけなどが燃費向上に繋がりました。



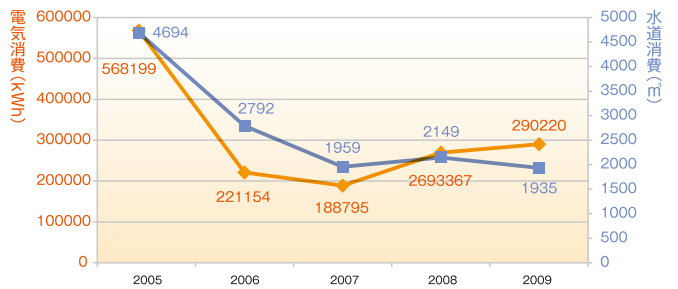
2 電気・水道・ガス消費量

当グループの電気・水道・ガスの消費量を管理し、数値を把握しています。事務所において、使っていない部屋の電気を消すことはもちろん、長時間使わないパソコンの電源を落としたり、電気ポットの使用時間を短くしたり、温熱便座のふたを閉めたりしています。

● LPガス消費量 (m)

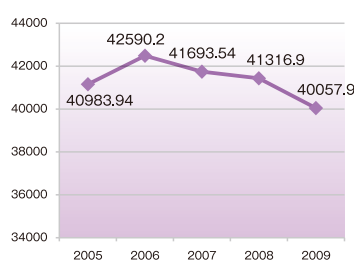


● 電気・水道消費量



4 重機燃料使用量

● 構内の重機燃料使用量 (ℓ)



湖南リサイクルセンターにおいて、中間処理に使用している重機燃料を削減するよう務めています。2009年度に燃料消費は昨年より1000ℓ以上減少しました。その要因のひとつはアイドリングストップの取り組みです。

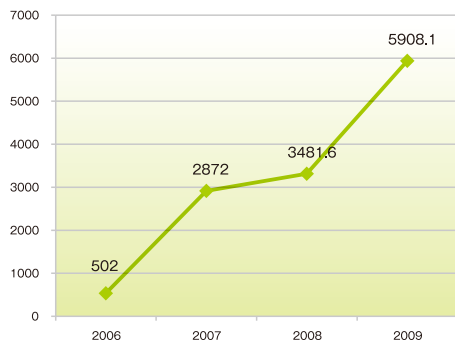


当社では、事業をしている中で、どうしても削減・増加できない、あるいは削減・増加の目標を立てることが出来ない項目については、維持管理を行い、データにより項目の状況を把握しています。そういったことにより項目を意識し、なるべく削減・増加できるように心がけています。



5 BDF 燃料使用量

● BDF燃料使用量(ℓ)



当社では廃植物油を回収しており、回収量は年々増加しています。回収された廃植物油は、油藤商事株式会社様にてバイオディーゼル燃料(BDF)に精製されます。そのBDFを当社の収集運搬車両に使用することで、循環型社会の実現に貢献するとともに、二酸化炭素の排出抑制にも一躍を担っています。

6 古紙のリサイクル率

紙は事務所で必要不可欠なものです。なるべく使用量を減らし、裏紙を使うようにしています。使用済み古紙をシュレッダーにかけ、資源循環センターで圧縮して製紙会社に売却しています。紙の使用量については一ヶ月毎のデータを管理しています。2009年度に使用した紙の約80%をリサイクルに繋げることができ、昨年より増加いたしました。また、一人当たりの使用量は減少させることができました。

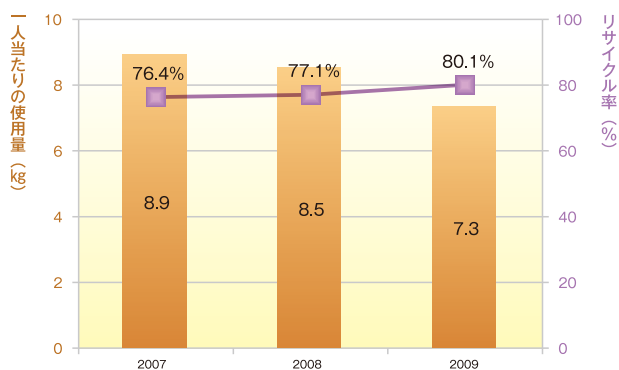


当社は、2005年からISO14001に取り組み最初の3年間で電気・水道・ガス使用量の削減と共に廃棄物を収集運搬する車両の燃費向上などここに掲げた項目は目的目標として活動してきました。2008年度からは維持管理項目へ移行しましたが、誰でもが参加できる身近な課題として、今後も地球温暖化防止に向けて環境への貢献を社員一同で取り組んでいきたいと思っています。

● 古紙使用量・リサイクル率

■ 一人当たりの使用量

■ リサイクル率



スタッフ
コメント



管理部 田中 恵子

安心できるサービスづくり



環境関連法規制の遵守評価

事業者の産業廃棄物はその事業者自らが処理しなければならない原則がありますが、処理ができない場合は、廃棄物処理業者に委託することが出来ます。当グループは排出事業者の皆さまから、収集運搬と処分を委託して頂きます。様々な地域における収集運搬業許可と処分業許可を取得し、法を遵守した適正処理を行っている上、廃棄物の流れをマニフェストによって最初から最後まで管理しています。当グループは右記の環境関連法律・条例・協定を遵守しています。

法律・条例		
● 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	● 労働安全衛生法	● Nox・PM法
● 滋賀県生活排水対策の推進に関する条例	● 道路運送車輛法	● フロン回収破壊法
● 消防法	● 計量法	● 資源有効利用促進法
● 建設業法	● 滋賀県ごみの散乱防止に関する条例	● 石綿障害予防規則
● 浄化槽法	● 騒音規制法・振動規制法・悪臭防止法	● 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律



騒音、振動と臭気に関しては毎年調査を実施し、基準に対するレベル状態を評価しています。以下に当グループの2009年度のデータを示しています。

騒音レベルと振動レベルの調査結果と評価

騒音と振動のレベルに関する調査を毎年一回キンカングループの2社にて行います。2009年度の調査結果によれば、実際の騒音レベルと振動レベルは規制基準値以下でしたので、良い評価となりました。

◎騒音レベル

	湖南リサイクルセンター	近畿環境保全
規制基準	70dB	65dB
調査結果 (場所/No1)	53dB	55dB
(場所/No2)	57dB	55dB
評価	○	○

2009年5月26日実施

◎振動レベル

	湖南リサイクルセンター	近畿環境保全
規制基準	70dB	70dB
調査結果 (場所/No1)	41dB	37dB
(場所/No2)	48dB	37dB
評価	○	○

2009年5月26日実施

臭気測定の結果と評価

臭気に関する調査がキンカングループの2社にて行われています。

	湖南リサイクルセンター 2009年5月26日実施	近畿環境保全 2009年10月20日実施
規制基準	敷地境界線14	12
試験の結果(臭気指数)	12	10以下
評価	○	○

水質

放流水に関してもデータ管理を行っており、年一回水質に関する調査を自主的に実施しています。

処分地視察

廃棄物の排出事業者であるお客様は、廃棄物の処理に最後まで責任を取らなければなりません。そのため、廃棄物が適正に処理されているのか、確認が重要になってきます。当社において廃棄物の中間処理が行われた後、処理された廃棄物は処分地に運搬されます。お客様が安心できる処理を提供するために最終処分地の視察、処理の確認を行っています。最終処分地が適正であると確認した後に、お客様に提案します。また、廃棄物処理についての情報をお客様に提供するだけでなく、お客様が自ら処理の確認をご希望であれば、当社においても、最終処分地においても視察および確認が随時可能となっております。

当社での視察



安全な仕事環境づくり

緊急事態対応



当グループにとって最も重大な事態は火災です。災害時を特定し、緊急事態対応するための手順を決定しています。実際に緊急事態が発生した場合、対応を行なった後、必要であれば手順を見直します。決定された手順が緊急事態の際、順調に実施できるように定期的に社内勉強会と訓練を行っています。

2009年9月に本社と湖南リサイクルセンターにて訓練を実施しました。説明会の後、火災のシミュレーションをし、対応の練習を行いました。また、同業者における火災事故の映像を流し、対策に関する意見交換も行いました。



火災以外の事故時に関しても毎年数回訓練や勉強会を行っています。構内で使用されている重機、リフトによる事故防止訓練を2010年2月と3月に実施しました。キャタピラウエストジャパン株式会社様とTCM株式会社様に来社いただき、重機の訓練と勉強会をしていただきました。



スタッフ
コメント



生産事業部 主任
吉田 光

毎年、数回工場で安全講習を行っています。講習では危険予測をし、事故が起らないようにどうしたらいいか教えていただいています。また、重機を使うので、その基本的なことも含め、訓練をしています。基本的なことでも、復習をしてよかったですいつも思います。訓練のおかげか分かりませんが、事故が減った感じもします。また、工場の安全を守るために、皆とのコミュニケーション、意見交換が非常に大事だと思っています。朝礼の時、基本行動原則を読み上げ、終礼の時一日の出来事、明日の予定や危険の解決についても話し合います。主任として工場を回っている時に、危険性があると、スタッフに声を掛けています。

処分先の視察



最終処分先、リサイクル処理先の視察は、我々はもちろん、排出事業者であるお客様にとっても大変重要なことです。お忙しい中、処分先の視察に現地へ行けないお客様に代わり、プロの目線でしっかりと処分先を確認していきます。また、お客様との処分先の視察同行をすることも致します。ぜひ、お声かけください。

スタッフ
コメント



営業部営業管理課課長 西村 篤



社会との調和への
取り組み



地域との調和

～滋賀県・湖南省との連携～



滋賀県琵琶湖森林づくりパートナー協定



2009年10月6日、滋賀県公館にて近畿環境保全株式会社と株式会社エコネット様、株式会社服部モータース様の3社が、三雲生産森林組合様との間で「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を結びました。この協定は、企業が森林づくりにかかる費用や労働力の提供をすることにより、森林整備が推進されるというものです。当日は、立会人として嘉田由紀子滋賀県知事と三雲生産森林組合のある湖南省の谷畑英吾市長も出席し、協定書に署名いただきました。

当社はこの協定によって森林を整備することにより湖南省の水源地とともに、私たちの暮らしの支えとなっている琵琶湖を守ります。また、活動によって木が元気になり、CO₂の吸収量も増え、地球温暖化を防止することもできます。そしてこの活動を通して地域住民の方々との交流を深め、環境に良い地域づくりと共生、基盤づくりをし、未来の子どもたちへ健全な自然を残していけるよう努めます。



当社は廃棄物処理業者として、廃棄物をできるだけ環境へ配慮した方法で処理することを心がけています。廃棄物の処理は排出事業者の責任であるため、排出事業者にとって最適な処理であることはもちろん、環境にとっても適している処理を提案しています。また、当社は環境への負荷を削減するために、様々な取り組みや、活動などを行っています。キンカグループは自然環境との調和と地域との調和に貢献することによって社会との調和を目指しています。



活動紹介

第一回の森林づくり活動を行いました。

協定締結後の2009年11月3日に第一回の森林づくり活動を行いました。当社と組合様、パートナー企業を含め、ほぼ30人が集まり、主に下草刈り作業を行いました。秋の涼しい時期でしたので、最初は寒かったのですが、作業すればするほど、コートを脱ぎ、気持ちよく汗かきました。これからも活動を毎年春と秋に集中させ、作業とともに、自然観察会、レクリエーション、ネイチャーゲームなども実施する予定です。



森林組合の方々のご指導の基、下草刈りを行いました



社長も頑張りましたよ



当社は森林づくりパートナー協定を結んだ後初めて森林活動を実施しました。今回の森林活動ではおもに下草を刈る作業をおこないました。参加された森林組合の方からは、鎌の使い方や下草を刈る重要性を教えてくださいました。私は、ふだんから趣味で山に登ったりするので森の中へはちよくちよく行くことがあります。いつも思うのですが森の中へ入ると空気が濃く深呼吸をするととても心地がいいです。今回は大きな自然の中のほんの一部分での活動でしたが、たくさんの自然を感じることができました。この協定を通じ、自然とのふれあいや、同僚とのコミュニケーションなどを楽しみたいと思います。



参加者感想

営業部 田頭 登紀



～草津市との連携～

草津市「愛する地球のために約束する」協定



当社社長と草津市長は、平成22年5月に地球温暖化防止に向けた「愛する地球のために約束する協定」を結びました。

草津市では、平成20年4月1日から「愛する地球のために約束する草津市条例」が施行され、市民、事業者、団体等が協働して地球温暖化防止に取り組む市民運動「草津市地球冷やしたい」が推進されています。



【協定の期間】

平成22年5月1日～平成23年4月30日の1年間。

本協定により当社の環境マネジメントをさらに意識しながら行動できるようになること、および当社が所在している草津市との交流が深まることを期待しております。

コメント



市民、事業者、団体、市役所等が協力して、自主的な温暖化防止活動の輪を広げていくことを目指し、現在、市長と39の市内事業者・団体が「愛する地球のために約束する協定」を結んでおります。貴社におかれましては、平成22年に協定を締結していただきました。環境への取り組みを多面的に行われているのももちろんのこと、その内容を広く社外に向けて発信していこうという強い熱意と行動力を感じています。今後、地域とのより積極的なコミュニケーションを図っていただき、環境学習や地球温暖化防止活動の普及・啓発を進めていただくことを期待しております。

草津市 市民環境部 環境課 環境政策・地球温暖化防止グループ 下川 真季 様

～清掃活動～

会社周辺 清掃活動

毎月一回清掃活動を計画・実施し、工場内・工場周り・道沿いにおけるごみ拾い、除草作業などを社員全員で行い、地域美化に貢献できるように努めております。



琵琶湖の日 清掃活動

7月1日は琵琶湖の日。毎年この日に、滋賀県全域で滋賀県主催による環境美化活動が行われます。数百名の参加者の中、当社も毎年参加しています。2009年には、草津市下寺町の湖岸緑地及び野洲川河川敷周辺にてごみ拾い活動を行いました。参加者389名が403kgのごみを集めることができました。



京都市 清掃活動



京都営業所では、清掃活動を通して、京都市の美化に貢献しています。京都環境事業協同組合主催の清掃活動に毎年参加しています。2009年11月1日にも京都市におけるごみ拾い活動を行いました。

私達は、社内と会社周辺の美化活動を行っています。事業活動を行う場所は私達がきれいにするのは当たり前だと考えています。小さいごみでも、事故につながったり、美しい景観が損なわれてしまうので地域と環境のために重要な活動に一生懸命取り組んでいます。今現在、月に1回の活動を行っていますが、今後は1週間に1回の活動を行いたいと思います。また、近くに川が流れているので川周辺の草刈りや掃除も行いたいと思います。住みやすい地域のため、そして美しい環境づくりのために、これからも社員一丸となって取り組んでいきたいです。



スタッフコメント

営業部 営業管理課 宮井 亮太



～キンカンセミナー・地元サッカーチームの応援～



第1回 キンカンセミナー



2009年6月1日に草津にて第1回のキンカンセミナーを行いました。セミナーの主な目的は、取引先の事業紹介、環境への取り組み、企業間の交流促進、異業種とのコラボレーションでした。

取引先の様々な企業から17名に参加していただきました。セミナーでは、「廃てんぷら油からバイオディーゼル」というテーマで油藤商事株式会社 専務取締役 青山裕史氏に講演していただいた後、エンブリッジ株式会社様の新たな携帯用PRサービスについて代表取締役 赤井基純氏にご紹介いただきました。環境へ配慮した資源循環事業と最新情報システムのテーマによる多様なセミナーでした。今後も、キンカンセミナーを通じ、取引先の企業間の関係を深め、各企業の活力、地元経済と環境活動の活性化に貢献していきたいと思っています。



知識のない分野のお話でしたが、十分に勉強になりました。また、今後の事業の進展につながる部分もあり今後の同等のセミナーを期待しております。



加藤機工商事株式会社 代表取締役 加藤 典義 氏

地元サッカーチーム「MIO びわこ草津」の応援

日本アマチュアサッカーの最高峰のリーグであるJFL(Japan Football League)で闘う「MIO びわこ草津」を応援しています。キンカングループの中核をなす近畿環境保全株式会社の本社が草津市に、中間処理業を営む株式会社湖南リサイクルセンターがMIOのホームグラウンドがある湖南市にあることから、地域活性化活動の一環としてMIOへの支援活動に取り組んでいます。2009年に行われたホームゲームには当グループのスタッフが数回応援に駆けつけました。





～世界との連携～



エコキャップ推進活動

2009年8月よりエコキャップ推進活動によるキャップ収集の送付先となりました。お客様のご協力により当社に集まったキャップを当グループがリサイクルにつなげ、キャップに支払ったお金の一部が募金となります。エコキャップ推進協会を通して寄附した募金により「世界の子どもたちにワクチンを贈る」活動に貢献しています。800個のキャップの値段は子ども一人分のワクチンになります。ワクチンによって発展途上国の主な感染症から子どもたちの命を助けることができます。さらに、キャップをリサイクルすることによって新しく製品に生まれ変わり、CO₂削減にも貢献できます。2009年度末現在、当社で集まったキャップは1,643,533個、4109kgであり、その個数は2054人分のワクチンに等しいです。



協力していただいた方々で、湖南省にある甲西中学校の卒業生が集めて下さったキャップを卒業式にて渡していただいたことは中日新聞に掲載されました。



お客様 コメント

株式会社服部モータース 代表取締役社長 村田 正利氏

「地域や社会に貢献する企業を目指す」という企業理念のもとに、2009年から環境への取り組みとしてエコ運転の実施、ゴミの分別の細分化、カーボンオフセットを行っています。ゴミの分別の細分化を進める中でエコキャップ推進活動について記事を見ました。ちょうどその頃に近畿環境保全西村社長と出会いました。

考えてみれば、出会ってそうそう「キャップ回収業者になって～」からスタートしたのではないかと思います。快く調べていただき、実現されとても感謝しています。ある意味あそこで西村社長はじめ近畿環境保全様のご協力がなければ今、キャップ回収活動も続いていなかったのではないかと思います。ほんとうに感謝しています。取引

企業様にもご協力いただいて当社を中心に関係各位からご協力をいただいています。社内で発生するキャップに限らず自宅や友人、親・兄弟、奥さんの知人の間でも回収がはじまったりとその輪は、確実に広がっています。

今後は、学校や幼稚園、公共機関など関係する多くの団体にも広げていきたいと思っています。小さな取り組みによって人の役に立てる喜びも増してきたのではないかと感じています。社会への貢献や地域への貢献へと従業員の意識は確実に増していると思います。貢献活動を通じて一人一人が思いやりのある優しい人間に成長していければと願っております。



～BDFプロジェクト～



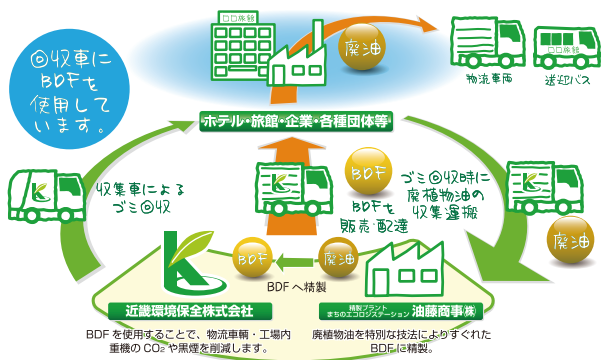
BDFプロジェクトの紹介



2006年から廃植物油を回収しています。油藤商事株式会社様で廃植物油を精製し、作られたバイオディーゼル燃料(BDF)を収集運搬車輛に使用しています。

2009年度から100%BDFで走る車輛は3台となり、当社の環境への負担の削減に貢献しています。BDFは、「カーボンニュートラル」な燃料、つまり追加の二酸化炭素を排出していないため、軽油使用時と比べると、2009年度に15.4トン以上のCO2を削減することができました。(※当社BDF使用量*0.00262→排出係数はH18年度環境省ホームページより)

廃植物油の回収を様々なお客様のご協力により行っていますが、その中で、2008年からおごと温泉組合様に協力していただき、廃植物油を組合において定期的なコースで回収するようになりました。効率的な廃油回収活動によりCO2削減ができ、更に地域の活性化にも繋がります。2009年から新たなBDFプロジェクトとして西日本高速道路メンテナンス関西様にも協力していただいております。



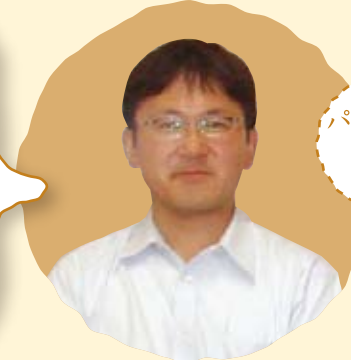
バイオディーゼルアドベンチャー



当グループでは廃植物油を原料としたバイオディーゼル燃料車で世界一周するプロジェクト、バイオディーゼルアドベンチャーを応援しています。2008年に世界一周をし、現在も日本各地で講演活動や交流を続けています。このプロジェクトは、中学校の教科書の表紙にも掲載されるなど、国内外を通じて大きく注目されています。私たちも、このプロジェクトやBDFを通じ、環境への取り組みや人々の交流を深めていきます。



近畿環境保全さんとは、廃食用油回収、バイオディーゼル燃料使用で付き合いをさせて頂いております。キンカンさんのお取引先で出る廃食用油を回収頂き、ゴミ収集車の燃料をはじめ、排出事業者さんにもバイオディーゼルをご提案頂いております。おごと温泉組合さん、西日本高速道路メンテナンス関西さんなど活動の輪はどんどん広がっております。今後もキンカンさんは地域循環型社会のリーディングカンパニーとしてご活躍をご期待しております。



パートナー企業コメント (Partner Company Comment)

油藤商事株式会社 専務取締役 青山 裕史 氏 (Aburafuji Shoji Co., Ltd. Executive Director Yoshihiro Aoyama)



～グループの環境負荷の削減～

67.8kg
CO₂
削減

カーボンオフセット

環境への負荷を削減するために、2008年5月から内モンゴルにてカラマツの植林を行っています。植林により当社のCO₂排出量の約5%をカーボンオフセットしています。カラマツ1本が30年間で吸収できる二酸化炭素量はおよそ250kgであると言われています。当社で、月に約8本のカラマツを植林しております。植林を通して、地球温暖化防止だけでなく、砂漠化進行の防止や土壌回復による生物多様性の確保など地球環境の保全にも努めています。スタートから2009年度末現在まで200本のカラマツを植林しました。



キンカンの森



グリーン電力

5770kg
CO₂
削減



当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は使用電力の5%をグリーン電力でまかっています。省エネ・CO₂排出削減を可能にした環境配慮型のリサイクル工場を実現しています。グリーン電力を利用することにより2009年度に約5770kgCO₂を削減できました。



グリーン購入

2009年度からグリーン購入ネットワーク会員となり、できるだけ、環境へ配慮した商品を購入するようにしています。スタートとして目指した20%購入率は実際に越え、26.3%を達成しました。来年度の目標は3割であり、年々割合を増やしていく予定です。



チャレンジ25

「チャレンジ25キャンペーン」は、これまでの地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」から、よりCO₂削減に向けた運動へと生まれ変わり展開するものです。オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂削減に向けた具体的な行動が、6つのチャレンジとして提案されています。キンカングループも「チーム・マイナス6%」に続き、チャレンジ25キャンペーンにも参加し、6つのチャレンジを次のように実施しています。

チャレンジ 1 エコな生活スタイルを選択しよう
当グループではクールビズやウォームビズを実践し、またスタッフはマイカップを使用しています。

チャレンジ 2 省エネ商品を選択しよう
グリーン購入ネットワーク会員として、環境への負担が少ない商品を選ぶようにしています。

チャレンジ 3 自然を利用したエネルギーを選択しよう
当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は、使用電力の一部をグリーン電力でまかっています。

チャレンジ 4 ビル・住宅のエコ化を選択しよう
エアコンを定期的に掃除し、冷房の温度を28℃に設定しても快適に過ごすことができます。

チャレンジ 5 CO₂削減につながる取組を応援しよう

植林によるカーボンオフセット、バイオディーゼル燃料の使用によるカーボンニュートラル、グリーン電力の使用、ペットボトルキャップの分別によりワクチンを寄附できるエコキャップ推進活動への参加、そして、滋賀県の森林づくり活動などによりCO₂削減に取り組んでいます。

チャレンジ 6 地域で取組む温暖化防止活動に参加しよう

滋賀県の「琵琶湖森林づくりパートナー協定」と「草津市愛する地球のために約束する協定」を結ぶことによって、地域の温暖化防止活動に参加しています。

営業部のわたしにとって、毎日の営業には車が必要になっています。社会人になって車を運転する機会が増え、チャレンジ25の取り組みの一つであるエコドライブを、特に心がけるようになりました。

一人ひとりの個人から、小さなエコが始められると実感しています。その他、グリーン電力・グリーン購入では、電気や事務用品など、毎日消費するものから環境に配慮できるので、さまざまな場面でエコを意識することが、今では習慣になっています。



スタッフコメント

営業部 吉村 祐香

キンカングループは地球温暖化防止国民運動、チャレンジ25キャンペーンに参加しています。





～びわ湖環境ビジネスメッセ 2009～



長浜ドームに 305 社の出店社が集結



びわ湖環境ビジネスメッセは、「環境と経済の両立」の基本理念のもと、毎年開催されます。2009年は、10月21日(水)～10月23日(金)の3日間、長浜ドームにて開催されました。過去最多305社の出展社が集結、39,000人の方々が来場されました。

我々キンカングループも、2009年で5回目の出展となり、リサイクル処理によるゼロエミッションの提案、安心・安全製品廃棄、ECO回収サービス、新工場の資源循環センターのご紹介、新しい取り組みのエコキャップ推進活動と森林づくりパートナー協定などをPRしました。また、異業種との交流を深めることもできました。3日間、昨年より多い、1213名の方にブースをご覧いただきました。



廃棄物処理を通して環境事業に携わる地元企業としてびわ湖環境ビジネスメッセには毎年出展させて頂いています。

まずは知って頂く事から始め、大手企業から地元の中小企業が一同に集まるという事で、弊社にとってはまたとないビジネスチャンスと捉えています。

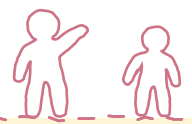
また、若手社員を中心に出席しており、研修の場としても活用しています。皆様には環境配慮した付加価値の高い提案が出来ればと考えていますので、びわ湖環境ビジネスメッセへお越しの際は弊社ブースへお越しください。

スタッフ
コメント



メッセ実行委員長 責任者
営業部主任 西村 幸佑

～資源物回収運動 - 環境ポイント～

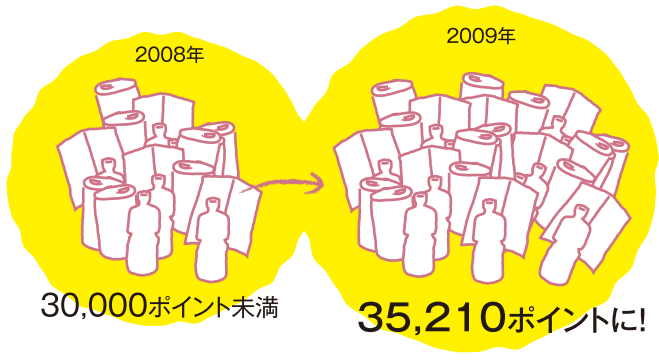
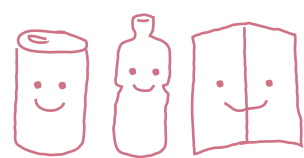


KINKAN 環境ポイント制度



社内で行われている資源物回収運動は今年で5年目となりました。資源物回収運動はポイント制度であり、缶やペットボトルなら、1個1ポイント、新聞などなら1kg1ポイントとして評価されます。近年では、資源物だけではなく、環境に関連するイベントや清掃活動に参加することでもポイントが与えられます。一番多く持参した20人の社員を毎年新年会で表彰しています。

年々、回収運動に参加するメンバーが増え、スタッフから集まる資源物は増加しています。2008年度からISO14001の目標の一つとしても取り込み、昨年の目標を一人当たり50ポイントより目標を70ポイントに引き上げ、運動を行いました。昨年は30000ポイントに満たなかったのですが、2009年度には35210ポイントが与えられ、31818個の資源物が集まりました。



回収運動が始まってから5年目ですね。当時、私だけでは資源物が少ないかなと思い、滋賀県に住んでいる兄弟と妻の兄弟にも声かけました。私は8人兄弟ですが、その中の3人と妻の兄弟2人から協力してもらい、いつも資源物を家まで持ってきてもらっています。兄弟との関係がもともといいのですが、この運動によってよく会うようになって、関係が深まったように感じます。いつもきれいに洗って持ってきてくれるので、親戚の環境意識も高まったのではないかと思います。

5年連続 優勝



スタッフコメント

取締役 井上 正

あしがき

以上、キンカングループの2009年度の環境活動・事業に関する報告でした。

2009年度の主な出来事は、本社工場をリニューアルし、資源物のリサイクルに特化した資源循環センターの稼働と琵琶湖森林づくりパートナー協定、グリーン購入ネットワーク会員、エコキャップ推進活動などでした。そして、継続している環境活動もさらに成長しています。このような取り組みを続けることで、当グループが地域と共に発展していく活動になると信じています。

当グループの基本理念「3K」環境・感動・改革を常に意識しながら行動すること、かつ社会（自然環境・地域）との調和を目指すことはスタッフ全員の動機付けとなっています。

環境に配慮した事業展開を考え、「人と地球にいいコミュニケーションパートナー」を理念に、地域社会との協働・連携を忘れずに、常に革新的に行動することによって、ステークホルダーの皆様へ感動を与えられる企業になれるよう、引き続き活動に邁進してまいります。

多くの会社の環境報告書を見てきましたが、同規模の会社の環境報告書に比べわけて優れた環境報告書と言えると思います。また、大変見やすく工夫されており、キンカングループのことが容易にわかる中身になっています。

今後も、発展するためにあえて厳しいコメントをします。環境報告書の読者は、顧客、取引先、従業員、一般市民です。廃棄物業者の環境報告書では特に一般市民、とりわけ近隣住民を意識することが重要です。その点で言うと情報公開の視点から十分でない部分がありますので、以下の点を課題として記載しておきます。

廃棄物業は、行政からの許可業務であり、キンカングループも適切に許可を取得し、運営していますが、キンカングループの許可範囲などが、この報告書からはわかりません。もしくは、参照できる仕組みになっていません。

また、環境に与える影響の全体像が把握できません。悪く読み取れば、努力している部分しか記載していないようにも見えます。私は、キンカングループのすべての施設を見せていただき、環境に与える影響を把握し、且つキンカングループが環境影響を最大限に少なくしていること、汚染防止に努めていることを認識できましたが、この報告書からは努力の内容はわかりませんが、すべての汚染に向き合っていることがわかりません。さらに、業界用語を控えることや数値単位記載を正確にするなど細かい工夫の余地もあります。

今後の発展に期待します。

第三者のご意見

NPO法人木野環境 丸谷 一耕 氏

(NPO法人木野環境様は、キンカングループがISOを認証取得するにあたってコンサルティングをして下さったNPO法人様です。)



ご意見・ご感想をお待ちしております。

キンカングループの環境報告書2010を最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。
今後も更に改良をしていき、より良い報告書にしていきたいと思っておりますので、皆様からのご意見・アドバイスなどを頂ければ、幸いです。
今後とも当社の環境活動に、ご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。

アンケートにご協力お願い致します。当ではまる回答の文字を、コンマ(,)をはさんで、記載し、
info@kin-kan.co.jp に送信してください。FAXでも受け付けております。

※記入例: b,e,h,k,n, ...



問1. この環境報告書を読んでどのようにお感じになりましたか？

- | | | | |
|--------------|-----------|-------|-----------|
| ● 内容について | a) 充実している | b) 普通 | c) もの足りない |
| ● 分かりやすさについて | d) 分かりやすい | e) 普通 | f) 分かりにくい |
| ● 文字の大きさ | g) 大きすぎる | h) 普通 | i) 小さすぎる |
| ● デザイン・レイアウト | j) 良い | k) 普通 | l) 悪い |
| ● ページ数 | m) 多すぎる | n) 普通 | o) 少なすぎる |

問2. 特に興味を持たれたのはどの項目でしたか？

- | | | | | | |
|----------------|------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------|
| p) 基本理念(3K) | q) ごあいさつ | r) 事業内容・会社概要 | s) グループ企業理念 | t) 施設紹介 | u) 目的目標 |
| v) 維持管理目標 | w) 安心できるサービスづくり | x) 安全な仕事環境づくり | y) 処分地視察 | z) 滋賀県・湖南市との連携 | |
| aa) 草津市との連携 | ab) 清掃活動 | ac) キンカンセミナー | ad) 地元サッカーチームの応援 | ae) 世界との連携 | |
| af) BDF プロジェクト | ag) グループの環境負荷の削減 | ah) びわ湖環境ビジネスメッセ 2009 | ai) 資源物回収運動 - 環境ポイント | | |
| aj) 第三者のご意見 | | | | | |

問3. 環境報告書について、今後改善すべき点や知りたい情報、ご感想などをお聞かせください。

ak)

- 環境報告書をどのような立場でお読みになりましたか？
- | | | | |
|-------------|-------------|---------|------------------------|
| al) お客様 | am) 取引先 | an) 同業者 | ao) 企業・団体の環境担当者・廃棄物担当者 |
| ap) NGO/NPO | aq) 研究・教育機関 | ar) 学生 | as) 行政機関 |
| at) 報道機関 | au) その他() | | |
- お住まい
- | | |
|----------|----------|
| av) 滋賀県内 | aw) 滋賀県外 |
|----------|----------|
- 性別
- | | |
|-------|-------|
| ax) 男 | ay) 女 |
|-------|-------|
- ご年齢
- | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| az) 20代 | ba) 30代 | bb) 40代 | bc) 50代 | bd) 60代 | be) 70才以上 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|

お問い合わせ

近畿環境保全株式会社 営業本部

〒520-3114 滋賀県湖南市石部口3丁目6番13号

TEL 0748-77-7288 FAX 0748-77-7299

Email: info@kin-kan.co.jp URL: <http://www.kin-kan.co.jp>

担当: 藤田



近畿環境保全株式会社

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社きぶら

有限会社ラゴ